# 国力無視の発想の先、真珠湾攻撃と8・15

大きな経済格差にもかかわらず、真珠湾攻撃に踏み切った（1941.12.8 真珠湾攻撃時の写真・photo by gettyimages）

（絵は「はだしのゲン」から）

1937 年（昭和 12 年）から始まった日中戦争で、日本軍は大陸の点と線を維持するのが精いっぱい。やがて物資不足が現実となり、節約の季節となる。昭和 14 年にはパーマネント禁止。金属や廃品回収もこのころから始まった。日米開戦後、銃弾や兵器製造に使うために、寺の鐘も供出されるようになった。

英国の経済学者アンガス・マディソン氏の研究チームの推計をみると、日本は勝敗にかかわらず、経済力にそぐわない戦争を繰り返してきたことがわかる。朝鮮出兵直後の 1600 年は、中国の GDP は日本の約 10 倍だった。日清戦争直前の 1890 年は、同じく中国が日本の約 5 倍、日露戦争直前の 1900 年のロシアは日本の 2.5 倍だった。

経済協力開発機構（OECD）によると、現在の中国の GDP は日本の 5.3 倍で、2050 年に 7.4 倍に広がる見通しだ。太平洋戦争開戦時の日米格差 4.9 倍を上回る開きである。1970 年代には日本が中国を 5 割上回ったが、その後、逆転した。外交力を駆使しなくては、防衛力だけで安全保障は成り立たない。「『必敗』の分析、国力無視の発想が行き着く先」（『朝日新聞』2024 年 8 月 15 日）

20250804-03